

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			数学		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
R元学 現3年	61.7 (0.92)	57 (0.92)	57 (0.91)	54.6 (0.88)	40.8 (0.81)	51 (0.90)
R3 正答率の全国比			0.88		0.89	

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

国語科

- ・ 話合いの話題や方向を広く捉える力が弱いので、一部のことのみについて自分の考えを書いている。
(本校 41.2 / 県 51.2 / 全国 57.1)
- ・ 生徒質問紙の「目的に応じて自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしている」項目では、9割の生徒がそう答えていた。これは、県や全国よりも高い。しかし、意見と根拠の関係をきちんと捉えて読んだり書いたりできていない。(19.6 / 22.3 / 24.8)
- ・ 語彙力が乏しく、情景描写の意味が分かっていない。(66.7 / 67.4 / 71.0)

数学科

- 基本的な知識や技能は身につけている。
- 資料の活用は県の正答率とほぼ同値である。
- ▲ 「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明すること」について、県の正答率より12.8ポイント低い。
- ▲ 図形の問題が全体的に県の正答率より5~13ポイント低い。特に、性質や条件を見出して表現したり、説明したりすることが苦手である。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

国語科

- ・2段落構成で意見と根拠を書き分けさせる練習を入れ、意見と根拠の関係を理解させる。
- ・話したり書いたりするときに「言葉と表現集」を活用し、語彙量を増やす。
- ・相手や場面に応じて、敬体・常体を使い分けることや、適切な語彙や言葉遣いを習得できるよう指導を行う。

数学科

- ・習熟度別クラスを編成し、基礎クラスでは基本的な知識や技能の定着を目指す、標準クラスでは活用の問題を單元ごとに1, 2時間設定し、数学的に表現したり、説明したりする授業を行う。
- ・生徒の理解を深めたり、思考を促したりするために、授業中に教え合いや学び合いの時間を適宜とる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・家庭学習部会を中心に推し進めている「810作戦」を徹底させ、生活のリズム安定と学習時間の確保を目指す。
- ・生徒質問紙の「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる」生徒が86.3%なので、100%を目指して今まで以上に読書を推進したり、前進タイムの時間に実施しているICTを利活用したスピーチを活性化させたりする。
- ・小テストなどで8割未満の生徒については、昼休み等を使って学習支援を個別に行う。
- ・定期テストや章末テストで活用に関する問題を最低1問出題し、思考力・判断力・表現力を養う。